

10月20（火）ふたばこども園を訪問しました！

## 対談テーマ

### 乳幼児期にやさしさの種をまきたい

～みんなが笑顔になる、生きる力の基礎を育てる教育・保育～

県教育委員会では、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続を目指しています。そこで、令和2年4月から幼保連携型認定こども園になりました、東近江市にある社会福祉法人阿育会ふたばこども園を訪問し、教育・保育の様子や小学校との接続について対談しました。

## 訪問した委員

土井 真一 委員 藤田 義嗣 委員 窪田 知子 委員 野村 早苗 委員

## ふたばこども園について

一人ひとりを大切に、愛情いっぱいの教育・保育を行っています。子どもが自分を大切に、人と豊かに関わりながら自分らしく生きていく基礎の力を育てていくことを大切にしています。



## 意見交換より

委員：小学校との連携・接続において、何が課題となっていますか。

こども園：地域の幼稚園から中学校までが集まって情報共有する機会がありますが、勤務形態が違うため、時間が合わず適任の職員が出席できないことが課題です。

委員：支援を必要とする子どもに関して小学校との連携はどうお考えですか。

こども園：資料だけでなく、直接会って情報交換をすることが重要だと考えています。

委員：家庭に園の方針や日々の情報などをどのように伝えていきますか。

こども園：園だよりやホームページのブログで積極的に発信をしています。また保護者説明会や送迎時の会話などで情報を伝えています。



## 教育委員の感想

### <土井委員>

ふたばこども園の子どもたちから素敵な笑顔をいただいたことに、心から感謝しています。まだ言葉も話さない幼い子どもに対しても、目を合わせて笑顔で語りかけることは、人が人に関わりあう基本です。忘れがちな基本を大切に、人と人の信頼関係の中で自尊心や自立心を育む姿勢に感銘しました。こうした幼児教育・保育を家庭教育や学校教育につなげるために、これまでの垣根を超えた取組を行うとともに、若い世代の皆さんが、このような人を大切にす幼児教育・保育を受け継ぎ、発展させていただけるよう、環境整備に努めたいと思います。

### <藤田委員>

現在社会における幼児教育の姿を実感することができました。そこでは、大きな愛情をもって教育・保育に携わる職員と幼児の関係から、幼保連携の一体感に安心感を覚えました。更に幼児から小学校への進学に関する連携・接続も工夫されていました。また、園長はじめ職員の皆様の愛情ある運営に感謝しています。施設は、十分な広さと立派な環境であり、モデルとなる園の実感を得る機会となりました。コロナ禍においてこのたびの機会にあたり関係皆様に心より感謝申し上げます。

### <窪田委員>

笑顔の子どもたちの姿に、日頃から丁寧に一人ひとりの子どもに関わり、寄り添っておられることがうかがえました。保・幼・小の円滑な接続や連携の必要性が指摘されている中ですが、早朝から夜までの子どもたちの生活の場であるこども園と小学校とでは職員の勤務体系が大きく異なり、双方の関係者が直接会って交流することの困難さを痛切に感じたところです。近年は、発達上あるいは養育上、支援の必要な子ども（家庭）も少なくないことから、就学という“段差”でのつまずきとならないように、柔軟な人事交流や双方のフィールドや専門性を生かした研修のあり方などを、県の課題としていかに充実させていけるか検討していきたいと思ひます。

### <野村委員>

私たちに笑顔で駆け寄り話しかける表情から、子どもたちは安心して保育を受けている姿が想像できました。園長先生が話された「全ての教育は幼児教育から始まる」というお言葉が強く心に残りました。余裕をもって子どもたちと接するためにも、保育士を志す若者が働きたいと思える環境を整備し、保育現場における人材不足という課題を解決していかなければいけないと思ひます。そのことが幼児期から児童期への教育が円滑に接続し、体系的な教育が組織的に行われることに繋がると考えます。



委員が部屋を訪れると、子どもたちは笑顔いっぱいの元気なあいさつで迎えてくれました。

幼児教育を担う幼稚園、保育所、認定こども園と小学校とが、「幼児期までに育ってほしい姿（10の姿）」をもとに互いの教育を知って協議を進めることが、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続に必要です。県教育委員会では、「学びの芽生え」を「学びの基礎」へとつなぐために、保幼小の連携・接続の推進を図っていきます。

〈教育総務課 企画係〉